

# 文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究<sup>(シ01)</sup>

**研究組織** 橘川英規、米沢玲、田代裕一朗、江村知子、安永拓世、二神葉子、小山田智寛、吉田暁子、小野真由美、城野誠治、阿部朋絵、高階郁美、田村彩子、中村茉貴(以上、文化財情報資料部)、塩谷純(上席研究員)、小林公治(特任研究員)、山梨絵美子、永崎研宣(以上、客員研究員)、久保田裕道(無形文化遺産部)、早川典子(保存科学研究センター)、金井健(文化遺産国際協力センター)

**目的** 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちを整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。あわせて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

## 成果

### 1. 調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・公開

- 当研究所刊行論文を学術機関リポジトリに公開した。(追加：34件、累積：15タイトル4,040件)。
- 日本国内刊行展覧会カタログ掲載論文(2020(令和2)年発表分)の書誌情報「東京文化財研究所美術文献目録」(993件)を、OCLCWorldCatに提供した。(2024(令和6)年1月)。

### 2. 国内外の関連機関との連携・研究協議・成果公開

- Getty研究所マリー・ミラー所長来訪、協議を行った(4月27日)。共同研究にて美術史研究における基礎資料270件(前田青邨文庫)をウェブサイト公開、Getty Research Portal (GRP) に書誌情報を提供した(2024(令和6)年1月)。
- 韓国美術史学会からの招へいにより、シンポジウムに討論者として参加し、近代日本における韓国陶磁鑑賞の様相に関してコメントした(4月29日)。
- イギリスのセインズベリー日本藝術研究所(SISJAC)、協定書調印(7月13日)。サイモン・ケイナー所長、松葉涼子氏が来訪、研究協議を行った(9月19日)。イーストアングリア大学セインズベリー視覚芸術センターにて、ギャラリートーク、講演を実施(11月16日)。SOASにて講演を実施(2024(令和6)年1月25日)。共同研究にて海外での日本美術に関する研究成果(論文発表、展覧会開催)を調査、当研究所ウェブサイト内で公開した。
- 早稲田大学で開催されたフォーラムにて、近代日本における韓国美術史研究に関する口頭発表を行った(8月31日)。
- 京都府との共同研究：京都府が所蔵する昭和初期の文化財調書のデジタル画像のうち約3,000件のメタデータを追加し、全てのデータ入力を完了した(計24,334件)。データベース構築及び公開活用のための協議を京都府担当者で行った(9月28日/2024(令和6)年3月21日)。
- 韓国における近年の文化財研究進展の紹介を国内専



(左) Getty研究所所長との協議(4月27日)、(右) イギリスでのギャラリートーク(11月16日)

門家・関係者等に行った(10月9日福岡市美術館/通訳、11月11日東京国立博物館/通訳、12月9日岡山理科大学/口頭発表)。

- 韓国のソウル大学校、韓国近現代美術史学会附設美術研究所から研究者を招聘、コロキウムを実施した(11月18日、1月26日)。
- イギリスのナショナル・ギャラリー、ナショナル・ポートレートギャラリー、ロンドン大学コートールド美術研究所、ボドリアン図書館ほかイギリス国内の美術館・博物館、図書館、アーカイブ施設を視察、各担当者と研究協議を行った(10月～2024(令和6)年2月)。
- イギリスのセインズベリーセンター、大英博物館で日本美術の作品調査を実施(11月9日、11月29日～12月1日)。
- 韓国の国立中央博物館、国立古宮博物館、ソウル歴史博物館、漢城百済博物館で日本美術の作品調査を実施(2024(令和6)年2月26・28～29日)。

## 発表

- 田代裕一朗：「近代日本人による朝鮮白磁収集と研究」に対する指定討論(リウム美術館、4月29日)
- 田代裕一朗：「美術史：末松熊彦、小宮三保松、加藤灌覚、山田萬吉郎」(早稲田大学、8月31日)
- 米沢玲：「東京文化財研究所の活動と羅漢図の調査研究」(セインズベリーセンター、11月16日)
- 田代裕一朗：「朝鮮時代における陶磁器製作をめぐる韓国の新知見」(岡山理科大学、12月9日)
- MAIZAWA, Rei: The Arhat painting at Kōmyōji Temple: Ichonography, style, and the worship of Buddha in East Asia, SOAS, 24.1.25

# 日本東洋美術史の資料学的研究<sup>(シ02)</sup>

**研究組織** 小野真由美、江村知子、二神葉子、橘川英規、安永拓世、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、田代裕一郎、黒崎夏央（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）、小林公治（特任研究員）、津田徹英（客員研究員）

**目的** 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査及び研究を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

## 成果

### 1. 研究基盤となる資料整備

ア) 美術史研究のコンテンツ制作として、16～17世紀の公家日記から美術関連事項を抄出し、順次テキストデータとして入力した。入力データ件数は702件。また、國華社旧蔵ガラス乾板（東京国立博物館蔵）のデータベース構築にむけて、総リスト4,023件のテキストデータ化を行った。

イ) 今泉雄作の鑑定記録『記事珠』（全38巻）のうち、初巻の全頁の影印画像に翻刻テキストデータと注を付した101件のデータベースを2024（令和6）年3月公開した。

(<https://www.tobunken.go.jp/materials/kijisyu>)

### 2. 研究交流の推進

ア) 日本美術に関する外部研究者を交えた研究会を開催し、研究交流を行った（所内の研究者による発表については「発表」の項を参照）。

- 田中知佐子：「1930年ローマ「日本美術展覧会」開催を巡る諸相」23.9.22
- 吉井大門：「大倉集古館所蔵「羅馬日本美術展覧会関係資料」について」23.9.22
- 篠原聰：「日本画シンドローム 羅馬日本美術展覧会における簗木清方の作例を中心に」23.9.22
- 小野美香：「原六郎コレクションの新たな展開—三井寺旧日光院客殿障壁画研究を契機として—」24.3.26

イ) 海外における美術史研究に関する研究会を在外研究者を招聘して開催した。また在外日本美術についての報告書を刊行した（「刊行物」の項を参照）。

- 金素延：「韓国近代の女性美術：韓国近代になぜ女性美術家はいなかったのか」24.1.17

### 3. 研究誌『美術研究』の編集を行い、下記のとおり国内外の研究成果を掲載した（所内の研究者による論文については「論文」の項を参照）。

- 原浩史：「神護寺薬師如来立像の造立意図—和気清麻呂の作善と八幡神の悔過—」『美術研究』440 pp.1-19 23.8
- 金正善：「朝鮮美術展覧会「書部」の制度的考察」『美術

研究』440 pp.21-32 23.8

- 鄭恩雨（大澤信訳）「陝川海印寺希朗大師像の特徴と制作の意味」『美術研究』442 pp.1-18 24.3

## 論文

- 二神葉子：「同時代の資料から読み解く在タイ日本人 三木栄の漆工専門家としての活動」『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究(2) —日本製漆工品と日本人漆工専門家—』pp.51-72 24.3
- 二神葉子：「タイ文化省芸術局に寄贈された三木栄旧蔵資料について」同上pp.83-151 24.3
- 小野真由美：「十六世紀末・十七世紀初頭の公家日記にみる絵巻の受容—『言経卿記』『時慶記』から—」『美術研究』442 pp.19-28 24.3

## 報告

- 二神葉子：「ワット・ラーチャプラディットの漆扉の研究について」茗溪学園中学校タイ研修旅行事前学習 23.11.21

## 発表

- 小野真由美：「西洞院時慶の庭—長谷川派の藤花図屏風をめぐる—」第57回オープンレクチャー 23.10.20
- 小野真由美：「新出の野馬図—旧日光院客殿障壁画との関連から—」第11回文化財情報資料部研究会 24.3.26

## 刊行物

- 二神葉子ほか：『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究(2) —日本製漆工品と日本人漆工専門家—』 24.3



今泉雄作著『記事珠』（東京文化財研究所蔵）

# 近・現代美術に関する調査研究と資料集成 (シ03)

**研究組織** 江村知子、橘川英規、吉田暁子、城野誠治、黒崎夏央、(以上、文化財情報資料部)、塩谷純(上席研究員)、三上豊、丸川雄三、田中淳(以上、客員研究員)

**目的** 日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。

## 成果

### ○近・現代美術の調査研究

岸田劉生の作品の調査研究：令和4年度に引き続き、《卓上林檎葡萄之図》(豊橋市美術博物館蔵)、《冬瓜葡萄図》《静物》(岡山県立美術館)、《黒き土の上に立てる女》《手》《静物(リーチの茶碗と果物)》(似鳥美術館)などについて光学調査を実施した。本研究では従来の美術史研究的手法に加えて、近赤外線や蛍光など複数の光源・照射方法によって取得した画像やX線透過画像や蛍光X線による彩色材料分析などの多種多様な調査手法を応用することにより、これまで不明であった岸田劉生の作品制作工程や材料の使用方法などについて考察を深め、新たな研究を推進することができた。成果は論文、口頭にて公表し、作品の重要性と光学調査の成果をより広くわかりやすく情報発信するため、リーフレットを発行した。

- 吉田ふじを(1887~1987)の作品・資料についての調査を外部研究者と協力して実施した。
- 近代日本画の受容と展開についての研究を進め、論文と口頭による発表を行った。

### ○資料の収集

- 令和4年度に寄贈を受けた創造美育協会に関する島崎清海(1923~2015)資料のアーカイブ化の作業を行

った。

- 黒田清輝(1866~1924)と親交のあった古郡家所蔵の、黒田清輝に関する資料(直筆冊子等)を同家よりご寄贈頂いた。ご遺族によりすでに整理が進んでいたこともあり、研究資料としての貴重性に鑑み、当研究所ウェブサイトにて情報公開した。また画家・森岡柳蔵(1878~1961)旧蔵の美術写真をご遺族から寄贈頂き、研究資料として公開準備を行った。

### 論文

- 塩谷純：「秋元洒汀と明治の日本画」(三)『美術研究』441 24.1
- 吉田暁子：「《手を描き入れし静物》細見—光学調査結果の報告と「手」という図像の発想源についての試論」『美術研究』441 24.1

### 発表

- 橘川英規：「画廊資料」をいかに残し、活用するか」第57回オープンレクチャー 東京文化財研究所 23.10.21
- 吉田暁子：「絵画と「美術写真」—岸田劉生の場合—」東京文化財研究所総合研究会 23.12.5
- 塩谷純：「山口蓬春と大和絵」文化財情報資料部研究会 24.3.7

### 刊行物

- 『東京文化財研究所・光学調査ノート1 岸田劉生《手を描き入れし静物》個人蔵・1918年』 24.3



岡山県立美術館での調査(11月1日)



研究会発表風景(2024(令和6)年3月7日)

# 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開<sup>(シ04)</sup>

**研究組織** 安永拓世、江村知子、二神葉子、橘川英規、小野真由美、米沢玲、小山田智寛、吉田暁子、田代裕一朗、黒崎夏央（以上、文化財情報資料部）、菊池理予（無形文化遺産部）、早川典子、倉島玲央（以上、保存科学研究センター）、塩谷純（上席研究員）、早川泰弘、小林公治（以上、特任研究員）

**目的** 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多角的に分析し、その関係の解明を目指すものであり、美術作品に対するより深い理解の醸成が期待される。

## 成果

### 1. 隣接諸分野と連携した多角的調査・研究

- 和泉市久保惣記念美術館と共同研究に関する覚書を締結し、重要文化財「伊勢物語絵巻」「駒競御幸絵巻」の光学的調査を実施した（3月14～16日）。
- 香川県・丸亀市の妙法寺との共同研究で、現在損傷のある与謝蕪村筆「寒山拾得図襖絵」を、当研究所が所蔵する昭和30年代のモノクロ写真を利用して復原する研究について、令和4年度刊行した報告書の内容を、オープンアクセスのデジタルコンテンツとしてウェブ公開した。さらに無料配布用のA5判の簡易リーフレットを作成し、広く一般向けに当研究所の共同研究の成果を紹介した。上野恩賜公園開園150周年イベントでは、パネルによる展示やリーフレットの配付により、成果公開と情報発信を行った。
- 東京国立博物館との共同研究で、当研究所保存科学センター、無形文化遺産部と協力し、マイクロスコープを用いて絹本絵画を調査し、画絹の糸の太さや本数、断面形状などを計測し、地域や時代による傾向を抽出する研究を平成31年度以降継続している。令和5年度は、東京国立博物館研究情報アーカイブズでのデータ公開の準備を行い、協議を行った。また、公開に向けてサンプルデータ4件（国宝「普賢菩薩像」、国宝「一遍聖絵 巻第七」、「毘沙門天像」、国宝「紅白芙蓉図」）の整理を進めた（6月5日、6月27日、2月29日）。

### 2. 研究成果の公開と蓄積データの機能拡張・相互連携

- 日本の美術工芸に関する研究会を9回行った（4月28日、5月30日、6月27日、7月25日、11月28日、12月11日、1月17日、1月23日、3月7日）。

- 大塚工藝社から2009（平成21）年に寄贈された刀剣のガラス乾板及び紙焼き写真資料について、活用のための整理作業を進め、紙焼き写真資料については、3月に資料閲覧室で公開を開始した。
- 美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年記資料集成）作成として、展覧会図録等から年記のある作品の資料を順次収集して入力し、令和5年度の入力件数は612件に達した。

## 論文

- 小林公治：「研究ノート 螺鈿の位相—理智院蔵豊臣秀吉像厨子から見る高台寺蒔絵と南蛮漆器の関係—」『美術研究』440 pp.33-72 23.8
- 安永拓世：「野際白雪筆「学黄鶴山樵山水図小襖」（和歌山県立博物館蔵）」『美術フォーラム21』48 pp.4-8 23.12

## 発表

- 江村知子：「酒吞童子絵巻の研究—調査中間報告」 令和5年度第1回文化財情報資料部研究会 23.4.28
- 田代裕一朗：「在朝日本人と韓国朝鮮美術史の形成について（予察）」 令和5年度第2回文化財情報資料部研究会 23.5.30
- 安永拓世：「桑山玉洲の旧蔵資料に関する復元的考察」 令和5年度第4回文化財情報資料部研究会 23.7.25
- 黒崎夏央：「薬師寺金堂薬師三尊像について—中尊台座異形像に見る薬師寺と韓国・慶州四天王寺の関係から—」 令和5年度第6回文化財情報資料部研究会 23.11.28
- 小林公治：「ポルトガルで「発見」された2基のキリスト教書見台について—桃山・江戸初期の禁教実相と日葡関係を映す新出資料—」 令和5年度第9回文化財情報資料部研究会 24.1.23

# 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

**研究組織** 二神葉子、江村知子、小林公治、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、田代裕一郎、石灰秀行、城野誠治、武藤明子、谷口每子、安岡みのり、酒井かれん、横尾千穂(以上、文化財情報資料部)  
 広報委員(情報システム部会)：友田正彦(副所長) 各部署情報システム部会員：菅原章、安孫子卓史(以上、研究支援推進部)、橘川英規(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、倉島玲央、千葉毅(保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)  
 広報委員(年報部会)：友田正彦(副所長) 各部署年報部会員：井上裕介、小杉則彬(以上、研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、前原恵美(無形文化遺産部)、芳賀文絵(保存科学研究センター)、友田正彦(文化遺産国際協力センター)

**目的** 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化する光学調査・研究を行い、その成果を公開する。また、東京文化財研究所で行われる調査研究に関する情報や、国内外の文化財に関する多様な情報について分析し、それらを文化財保護に対して活用するための調査研究を行う。さらに、それらの情報の効果的な公開手法に関する調査研究を行い、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。

## 成果

### 1. デジタル画像の形成方法の研究開発

- ア) 所内の他プロジェクトとの連携、また、所外からの依頼により、神戸市立博物館所蔵「紙本著色四都図・世界図〈ノ八曲屏風〉」(重要文化財)、恵庭市教育委員会所蔵「櫛」(重要文化財・北海道カリンバ遺跡土坑墓出土品の一部)、北海道立北方民族博物館所蔵「草製人形」ほか多数の民族資料、サントリー美術館所蔵「栓付瓶「葡萄」」(エミール・ガレ作)などについて、調査研究や修理のための光学調査、記録作成を実施した。
- イ) 『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色春日権現験記巻十五・巻十六 光学調査報告書』を2024(令和6)年2月、『ものの記憶一色を遺し・伝える』を2024(令和6)年3月に刊行した。
- ウ) 沖縄県立博物館・美術館とのガラス乾板に関する共同研究の一環として、協議、調査を行った。

### 2. 文化財情報に関する調査研究

- 北海道立北方民族博物館との文化財の記録作成等に関する共同研究の一環として、同館所蔵作品の撮影及び記録作成に関する協議を同館関係者と行った。
- また、文化財写真のパネル展示「文化財写真—北方民族の文化多様性を伝える」を11月3日～12月10日に、パネル展示と連動した研修「学芸員のための文化財写真研修会」並びに一般向け講演会「文化財写真の魅力と役割」をそれぞれ11月10日、11日に共催した。

### 3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

- ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトを活用し、ウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、当研究所元職員松島健氏の旧蔵資料などデータベースの新規ウェブ公開、「ガラス乾板データベース」の当研究所所蔵ガラス乾板の画像及びメタデータで、東京、京都、奈良及び九州の国立博物館所蔵作品に関するもののColBaseへの掲載を行った。さらに、メールマガジン、ソーシャルメ

ディアを通じて、当研究所ウェブサイト更新情報を発信した。

- イ) 年報部会員と連携し、2023(令和5)年6月30日付で『東京文化財研究所年報2022』を刊行した。
4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実
- ア) 各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と連携してセキュリティ水準の維持向上に努めた。また、情報システムセキュリティ研修(2024(令和6)年2月27日開催)を含む所内の情報基盤整備・セキュリティ関連業務を、情報システム部会員と連携し行った。
- イ) 令和4年度に引き続き、各職員の端末のActive Directoryへの参加を進め、個別認証機能を強化した。また、所外持出端末の環境設定、VPN接続のための機器更新及び二要素認証システムの構築など、ネットワークのための環境を整備した。

## 論文

- 早川泰弘、城野誠治：「春日権現験記絵の彩色材料調査(巻十五・十六)」『皇居三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十五・十六 光学調査報告書』pp.30-33 24.2  
ほか3件

## 発表

- 小山田智寛：「売立目録デジタルアーカイブ」の活用とシステムの改修について」2023年度アート・ドキュメンテーション学会第16回秋季研究集会 23.10.28  
ほか5件

## 刊行物

- 『皇居三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十五・十六 光学調査報告書』 24.2  
ほか1件

## ウェブサイトアクセスランキング(令和5年度 上位10位まで)

1	ガラス乾板データベース	6	異体字リスト
2	『日本美術年鑑』所載物故者記事	7	黒田清輝の代表作品
3	東京文化財研究所トップ	8	黒田清輝日記および久米桂一郎日記の日付順アーカイブ
4	書画家人名データベース	9	年紀資料集成
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報	10	黒田記念館トップ

## ウェブサイトの主な更新履歴(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

年月日	更新内容	関係部局
23.4.6	開催案内 こども文化遺産ワークショップ「なりきり！エジプト考古学者」	文化遺産国際協力センター
23.4.11	開催案内 特別講演会「ツタンカーメン王墓発掘100周年 エジプト王家の谷発掘調査の現在」	文化遺産国際協力センター
22.5.17	開催案内 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修	保存科学研究センター
23.5.23	開催案内 文化財修復処置に関するワークショップ	保存科学研究センター
23.6.8	開催案内 エントランスロビー展示「文化財の修理に用いる用具・原材料の現在」	保存科学研究センター
23.7.27	資料閲覧室 収集アーカイブズ「香取秀真旧蔵資料」の情報公開	文化財情報資料部
23.9.6	開催案内 第57回オープンレクチャー かたちを見る、かたちを読む	文化財情報資料部
23.9.12	開催案内 赤外分光・ラマン分光ユーザーズ・グループ(IRUG)国際会議 開催	保存科学研究センター
23.9.26	「松島健旧蔵資料」データベース公開	文化財情報資料部
23.10.4	開催案内 第17回 無形文化遺産部 公開学術講座「宮園節の魅力を探る」	無形文化遺産部
23.10.17	上野恩賜公園開園150周年総合文化祭 展示ブース出展	東京文化財研究所
23.10.17	開催案内 第2回西アジア考古学最前線「トップランナーズセミナー」と「パイオニアセミナー」	文化遺産国際協力センター
23.10.17	Sketchfabによる文化財3Dモデルの公開	文化遺産国際協力センター
23.10.17	妙法寺(香川県丸亀市)所蔵 与謝蕪村作品デジタルアーカイブ 公開	文化財情報資料部
23.10.26	開催案内 文化遺産国際協力コンソーシアム第33回研究会「文化遺産保護の国際動向」	文化遺産国際協力コンソーシアム
23.10.30	映像 シナノキ利用の技 公開	無形文化遺産部
23.10.30	開催案内 令和5年度 世界遺産研究協議会	文化遺産国際協力センター
23.11.30	開催案内 文化遺産国際協力コンソーシアム令和5年度シンポジウム 世界遺産条約制定50周年記念「世界文化遺産の50年：日本の貢献のこれまでとこれから」	文化遺産国際協力コンソーシアム
23.11.11	開催案内 公開研究会「航空資料の保存と活用」	保存科学研究センター
23.12.22	資料閲覧室 収集アーカイブズ「古郡家資料」の情報公開	文化財情報資料部
24.1.22	映像「太棹三味線 革張りの記録(長編)－歌舞伎 竹本－ 井坂重男」公開	無形文化遺産部
24.1.26	開催案内 国際研修「紙の保存と修復」2024	文化遺産国際協力センター
24.1.30	開催案内 カンボジア・アンコール・タネイ寺院遺跡東門修復竣工記念 研究会	文化遺産国際協力センター
24.2.9	『実演記録「宮園節」』公開	無形文化遺産部
24.2.28	開催案内 研究会 修理と記録－用具・原材料の調査研究とアーカイブ	文化財情報資料部
24.2.29	開催案内 文化財科学に関する日仏ワークショップ	保存科学研究センター

# 専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充<sup>(シ06)</sup>

**研究組織** 橘川英規、米沢玲、田代裕一朗、江村知子、安永拓世、二神葉子、小山田智寛、吉田暁子、小野真由美、城野誠治、阿部朋絵、大前美由希、尾野田純衣、小林真美、鈴木良太、高階郁美、田村彩子、寺崎直子、中村茉貴（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）、小林公治（特任研究員）、山梨絵美子、永崎研宣（以上、客員研究員）、久保田裕道（無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、金井健（文化遺産国際協力センター）

**目的** 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

## 成果

### 1. 全所的な文化財情報の発信

- 当研究所副所長を委員長とするアーカイブWGを例年通り4回(6月28日、9月21日、12月14日、6年3月18日)開催し、アーカイブの拡充と積極的な情報発信を行うための協議を行った。

### 2. 文化財研究のためのデータ蓄積と公開

- 当研究所が撮影したX線フィルムのデジタル画像(約4,150点)のデータベースを資料閲覧室で公開した(4月3日)。
  - 韓国・国立中央博物館、国立慶州博物館、国立晋州博物館、成均館大学校博物館、ソウル大学校博物館を往訪し、アーカイブ関連研究者と戦前の文化財調査写真に関する研究協議を行った(5月18～19日、12月19～21日)。
  - 雑誌『國華』掲載作品図版を資料閲覧室で追加公開した(追加公開：400号～、既出：800号～1200号)(6月5日)。
  - 香取秀真旧蔵資料の目録を当研究所ウェブサイトにて公開し、資料閲覧室での閲覧提供を本格的に開始した(7月27日)。
  - 韓国において戦前の文化財調査写真に関する調査を行った(国立中央博物館、国立中央図書館)(9月24～25日)。
  - 松島健旧蔵資料を受け入れ、その目録情報を当研究所ウェブサイトにて掲載、これを資料閲覧室にて公開した(9月26日)。
  - 韓国・国外所在文化財財団の助成を受けて、資料閲覧室が所蔵する韓国絵画調査資料のアーカイブ化を行った。
  - 日本民藝館が所蔵する近代資料のアーカイブ研究書を共著で刊行した(12月26日)。
  - 長期的・安定的な研究資料収集のため、アーカイブ増床・保存環境適正化を目的とした書庫等の整備を行った(12月～2024(令和6)年3月)。
- ### 3. アーカイブを利用した研究・外部機関との協力
- 当研究所所蔵資料を武井武雄展(県立神奈川近代文学館)、イン・ビトウィーン展(埼玉県立近代美術館)に貸し出した。

- 国内外の大学・大学院学生や専門家などを対象とした資料閲覧室の利用ガイダンス等を行った(4月12日青山学院大学大学院、9月1日韓国伝統文化大学校、10月16日学習院大学、10月28日アート・ドキュメンテーション学会、2024(令和6)年3月21日韓国・国立朝鮮王朝実録博物館)。



学習院大学学生へのレクチャー(10月16日)

- ### 4. 資料閲覧室の運営・管理・資料受け入れ数：4～10月は節電のため、12月～6年3月は書庫工事のため、変動的な開室とした(4月3日～6月21日：週2回月・水、6月22日～10月5日：週3日月・水・木、10月11日～2024(令和6)年3月30日：週3日月・水・金[うち、12月18日～3月30日は機能縮小開室])。閲覧室利用状況：公開日総数129日・年間利用者合計628人 図書等の受け入れ和漢書1,328件、洋書34件、展覧会図録・報告書等1,312件、雑誌3,656件(合計6,330件)。

## 論文

- 米沢玲：「展覧会評 上原美術館「無冠の仏像」—文化財の指定とその価値をめぐる—」『美術研究』440 23.8
- 田代裕一朗：「朝鮮初訪問時の蒐集品をめぐる」ほか1件『柳宗悦の心と眼—日本民藝館所蔵朝鮮関連資料をめぐる—』東京藝術大学出版会 23.12
- 田村彩子：「東京文化財研究所年史資料公開に向けての記述編成」『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』20 24.3
- 江村知子：「研究ノート：遊楽図へのまなざし—徳川美術館蔵「遊楽図屏風(相応寺屏風)」の細部表現について」『美術研究』442 24.3

令和5年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）<sup>(シ08)</sup>

**研究組織** 安永拓世、江村知子、吉田暁子、黒崎夏央、塩谷純、二神葉子、橘川英規、小野真由美、米沢玲、小山田智寛、田代裕一郎（以上、文化財情報資料部）

**目的** 文化財情報資料部の研究成果の一部を広く一般に公開する。

## 成 果

1. 2023(令和5)年10月20日(金)、21日(土)の2日間、一般から聴講者を募集し、オープンレクチャーを開催した。令和5年度は、中期計画の3年目にあたり、大テーマは4年度と同じく「かたちを見る、かたちを読む」とした。また、4年度までは、新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、内部講師2名のみによる1日間の開催としていたが、今年度からは、コロナ禍前の開催状況に戻し、外部講師2名と内部講師2名による2日間の開催とした。講演テーマは次の通り。

10月20日(金)

- ・小野真由美（文化財情報資料部 日本東洋美術史研究室長）「西洞院時慶の庭一長谷川派の藤花図屏風をめぐる一」
- ・春木晶子（江戸東京博物館 学芸員）「アイヌの肖像画「夷酋列像」にこめられた国家守護の願い」

10月21日(土)

- ・橘川英規（文化財情報資料部 文化財アーカイブズ研究室長）「「画廊資料」をいかに残し、活用するか」
- ・岡村幸宣（原爆の図丸木美術館 学芸員・専務理事）「原爆の図」の歴史をつなぐ」

2. 令和4年度まで、外部からの聴講者は新型コロナウイルス感染防止の観点から、定員を絞って50名の抽選制としたが、5年度は、聴講者定員を50名から100名に増やした。

3. 講演内容については、江戸時代の絵画作品に関する新知見や新しい解釈を紹介したほか、一般の聴講者には、より身近な存在である近現代の作品や資料について、その活用や継承のあり方を、動画などを通して提示することで、親しみやすく、わかりやすい講演となった。参加者からのアンケート結果では、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて86%の回答を得た。



第57回オープンレクチャー チラシ



第57回オープンレクチャーの様子

Lyudmila MIRONENKO (National Academy of Sciences of Ukraine)

“Archaeological Repository at the Institute of Archeology, NAS of Ukraine: Research Potential and Urgent Needs.”

上北恭史 (筑波大学) “Research for the conservation of historic wooden church buildings in Eastern Europe”

石村智 (東京文化財研究所) “The current situation surrounding war-damaged cultural heritage in Sudan.”

Alla BUJSKIKH and Vsevolod IVAKIN (National Academy of Sciences of Ukraine)

“Monitoring of the Archaeological Heritage in Ukraine in the War” [Online]

Serhii TELIZHENKO (National Academy of Sciences of Ukraine)

“The Impact of the War on Ukrainian Museums: Luhansk, Donetsk, Zaporizhia, and Kherson regions” [Online]

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

## 総合研究会 <sup>(4シ)</sup>

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和5年度は下記のスケジュールで開催した。

- 第1回 2023 (令和5)年6月6日 (火)  
石村智 (無形文化遺産部) 「無形文化遺産における価値とオーセンティシティ」
- 第2回 2023 (令和5)年7月4日 (火)  
千葉毅 (保存科学研究センター) 「博物館における防災の取組み—神奈川県博物館での事例から—」
- 第3回 2023 (令和5)年10月10日 (火)  
西田典由 (保存科学研究センター) 「文化財としての紙、工業製品としての紙」
- 第4回 2023 (令和5)年12月5日 (火)  
吉田暁子 (文化財情報資料部) 「絵画と「美術写真」—岸田劉生の場合—」
- 第5回 2024 (令和6)年3月5日 (火)  
牛窪彩絢 (文化遺産国際協力センター) 「宗教学から見た沖縄の葬墓制—文化財としての墓の在り方を考える—」

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

## 文化財情報資料部研究会 <sup>(4シ)</sup>

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。2023 (令和5) 年度の開催内容は以下の通り (肩書きは発表時のもの)。

- 4月28日 (金) 江村知子 (文化財情報資料部長)  
「酒呑童子絵巻の研究—調査中間報告」
- 5月30日 (火) 田代裕一郎 (文化財情報資料部研究員)  
「在朝日本人と韓国朝鮮美術史の形成について (予察)」
- 6月27日 (火) 小山田智寛 (文化財情報資料部主任研究員)  
「デジタルデータの長期保存について」
- 7月25日 (火) 安永拓世 (文化財情報資料部広領域研究室長)  
「桑山玉洲の旧蔵資料に関する復原的考察」
- 9月22日 (金) 田中知佐子 (大倉集古館)  
「1930年「羅馬開催日本美術展覧会」開催を巡る諸相」

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

57

吉井大門（横浜市歴史博物館）  
「大倉集古館所蔵「羅馬日本美術展覧会関係資料」について」  
篠原聰（東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター / 松前記念館）  
「日本画シンドローム 羅馬日本美術展覧会における鍋木清方の作例を中心に」

- 11月28日（火） 黒崎夏央（文化財情報資料部アソシエイトフェロー）  
「薬師寺金堂薬師三尊像について—中尊台座異形像に見る薬師寺と韓国・慶州四天王寺の関係から—」
- 12月11日（月） 片倉峻平（東北大学史料館）  
「郭店楚簡の用字避複調査に関する中間報告」
- 1月17日（水） 金素延（梨花女子大学校）  
「韓国近代の女性美術 韓国近代になぜ女性美術家はいなかったのか」
- 1月23日（火） 小林公治（東京文化財研究所特任研究員）  
ウルリケ・ケルバー（リスボン新大学研究員）  
翻訳代読：倉島玲央（保存科学研究センター研究員）  
「ポルトガルで「発見」された2基のキリスト教書見台について—桃山・江戸初期の禁教実相と日葡関係を映す新出資料—」
- 3月7日（木） 塩谷純（東京文化財研究所上席研究員）  
「山口蓬春と大和絵—“新古典主義”の見地から」
- 3月26日（火） 小野真由美（文化財情報資料部日本東洋美術史研究室室長）  
「新出の野馬図について—旧日光院障壁画との関連から—」  
小野美香（東京国立博物館学芸企画部企画課 アソシエイトフェロー）  
「原六郎コレクションの新たな展開—三井寺旧日光院客殿障壁画研究を契機として—」

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

## 研究資料データベース （④シ05の一部として実施）

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、26件のデータベース、12万件余りのデータを公開しており、すべてのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。

[www.tobunken.go.jp/materials/](http://www.tobunken.go.jp/materials/)

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

## 東文研 総合検索 （④シ05の一部として実施）

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、29件のデータベース、約175万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。

[www.tobunken.go.jp/archives/](http://www.tobunken.go.jp/archives/)

## 令和3年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業 『美術研究』(調査・研究成果の公開)<sup>(シ07)</sup>



### 『日本美術年鑑』

『日本美術年鑑』は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。令和3年版は、B5判、480ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

### 『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院付属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行、以来90年にわたり日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論説、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料等を掲載している。本年度は440号、441号、442号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



## 無形文化遺産部出版関係事業<sup>(ム04)</sup>



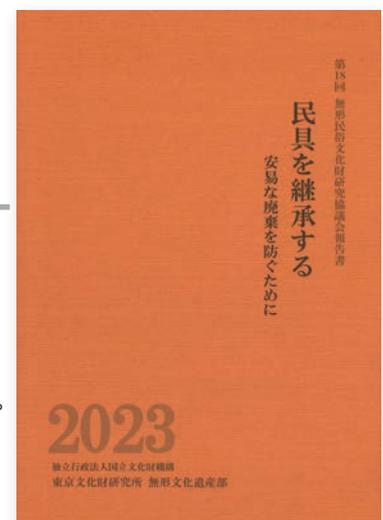
### 『無形文化遺産研究報告』第18号

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術、無形文化遺産保護の国際的な動向等に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。第18号には報文8本を掲載。2024年3月刊行、196ページ。

### 第18回無形民俗文化財研究協議会

#### 『民具を継承する—安易な廃棄を防ぐために』

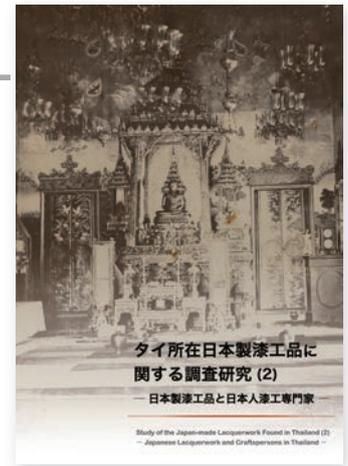
無形文化遺産部では毎年テーマを定め、行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第18回にあたる令和5年度は、昨年課題となっている有形民俗資料の保存・継承について議論し、その内容を報告書にまとめた。2024年3月刊行、148ページ。



## 『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究 (2) -日本製漆工品と日本人漆工専門家-』

幕末から明治期に日本で制作され、現在はタイに所在する漆工品に関するこれまでの調査研究の成果をまとめた日本語版報告書の第2冊目。本書では国立図書館、王室寺院、離宮に所在する日本製漆工品のほか、1910年代から第二次世界大戦終了までタイで活動した三木栄などの日本人漆工専門家についても紹介した。2024年3月刊行、154ページ。

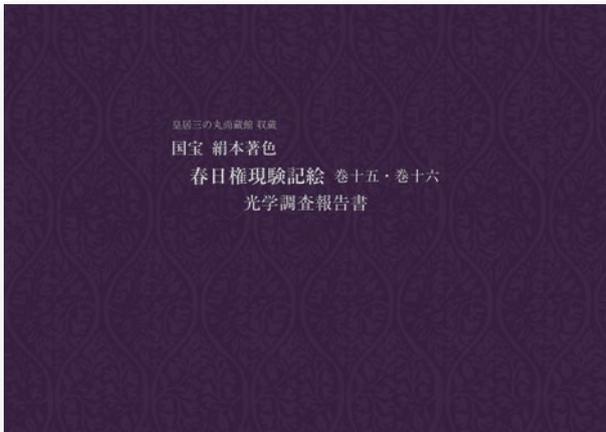
(①シ02の一環として刊行)



## 『皇居三の丸尚蔵館収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵巻十五・巻十六 光学調査報告書』

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館（当時）と共同で実施した、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻の光学調査のうち、巻十五・巻十六に関する報告書である。さまざまな光源での撮影や蛍光 X 線分析による材料や技法に関する調査結果のほか、作品解説、灯火具に関する論考を掲載した。2024年2月刊行、232ページ。

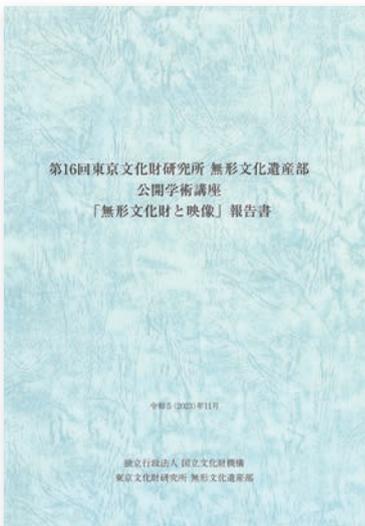
(④シ05の一環として刊行)



## 『ものの記憶—色を記録し・伝え・遺す—』

令和3年（2021）刊行の『ものの記憶—読み解き・伝え・遺す—』の第二弾で、文化財の色をテーマにした研究報告書。油絵、日本絵画、浮世絵、考古遺物、民族資料、工芸作品などさまざまなジャンルの豊富な写真とともに11篇の論考を収載する。令和6年（2024）3月刊行、152ページ

(④シ05の一環として刊行)



## 『第16回公開学術講座「無形文化財と映像」報告書』

令和5年度に東京文化財研究所にて開催した第16回公開学術講座「無形文化財と映像」の報告書。2本の報告と2本の事例報告、座談会の内容を文字化した。2023年11月刊行、98ページ。

(①ム01の一環として刊行)

## 博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)<sup>(ホ08)</sup>

**研究組織** 建石徹、朽津信明、犬塚将英、早川典子、佐藤嘉則、秋山純子、芳賀文絵、千葉毅、島田潤、由井和子(以上、保存科学研究センター)、水谷悦子(保存科学研究センター併任、文化財防災センター)ほか

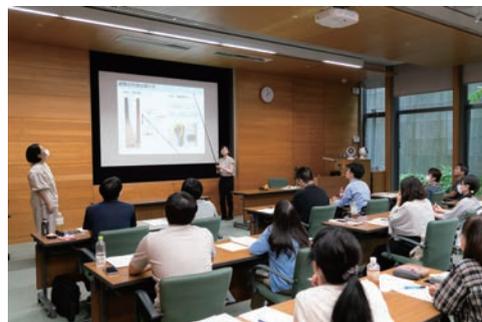
**目的** 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。  
2)研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

### 成果

- 博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)を実施した(7月10~14日、受講者30人)。
- 令和3年度より保存環境に重きを置いた基礎的な内容を文化財活用センターが「基礎コース」として行い、東京文化財研究所では、「上級コース」としてこれまで博物館・美術館等保存担当学芸員研修を受講されてきた方々や同等の経験を有している方を対象に実施した。
- 研修内容は次のとおりである。文化財修復原論、文化財の科学調査、空気質(空気質について/空気汚染の文化財への影響/空気質の改善・換気の考え方)、保管環境に関する理論と実践(空調)、文化財IPM概論・実習、修復材料の種類と特性、屋外資料の劣化と保存、近代化遺産の保護、多様な文化財の保存と修復(文化財レスキューについて/一時保管施設の環境管理/博物館現場で日常的に実践できる文化財防災)、博物館の防災、民

具の保存と修復、大量文書の保存・対策、紙本作品等の保存と修復、写真の保存・管理。

- 研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、研修全体を通して満足度が高いという評価だった。



空調に関する講義の様子

## 文化財の収集・保管に関する指導助言<sup>(シ)</sup>

**担当** 江村知子、二神葉子、橘川英規、小野真由美、安永拓世、城野誠治、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、田代裕一朗(以上、文化財情報資料部)、塩谷純(上席研究員)、小林公治(特任研究員)

**目的** これまでに蓄積された文化財に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、文化財保存の質的向上に貢献する。

### 成果

助言の依頼は国(5件)、地方自治体(8件)、関連機関(17件)、海外(12件)の合計42件で、以下の通りである。

1. 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助言
2. 文化庁の非常勤調査員として熊野速玉大社所蔵の国宝古神宝類に関する保存・現状調査・保存計画の協議と助言
3. 文化庁の非常勤調査員として重要文化財の草堂寺方丈障壁画の現状調査と今後の修理計画に関する協議・助言
4. 文化庁の非常勤調査員として美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業に関する助言

5. 文化庁の非常勤調査員として丹後郷土資料館の所蔵資料に関する調査・助言

6. 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員

7. 江戸東京博物館資料収蔵委員として作品収蔵に関する検討での助言

8~42. 以下、文化財調査・保管等に関する協力・助言

愛知県美術館、足立区郷土博物館、サントリー美術館、戸栗美術館、五島美術館、和泉市久保惣記念美術館、大田市歴史資料館、神奈川県立歴史博物館、京都府教育委員会、角屋もてなしの文化美術館、徳川美術館、中之島香雪美術館、南蛮文化館、日本二十六聖人記念館、広島県立美術館、フェルケール博物館、文化財建造物保存技術協会、野崎家塩業歴史館、北海道立北方民族博物館、大和

文華館、理智院、和歌山県立博物館、絵金蔵、佐賀県立九州陶磁文化館、浦添市美術館、沖縄県立博物館・美術館、仙台市教育委員会、MIHO Museum、駐日韓国大使館文化院、駐日エジプト大使館、日韓文化交流基金、忠南文化遺産研究所・ソウル大学校博物館・湖林博物館・

民族文化遺産研究院・リウム美術館(韓国)、タイ国立図書館、スアン・パッカード博物館(タイ)、パウアー財団東洋美術館・リートベルク美術館(スイス)、グラッシー美術館(ドイツ)、セインズベリー視覚芸術センター(イギリス)

## 無形文化遺産部

2-(5)-②-1)

無形文化遺産に関する助言<sup>(ム)</sup>

**担 当** 石村智、久保田裕道、前原恵美、今石みぎわ、菊池理予、後藤知美、鎌田紗弓、飯島満(以上、無形文化遺産部)

**目 的** これまでに蓄積された無形文化遺産に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、無形文化遺産の継承に資する。

## 成 果

## ○国への助言

- 文化庁への文化審議会に関する助言1件
- 文化庁への審査に関する助言3件
- 文化庁への調査員としての助言3件
- 文化庁への各種委員会への助言1件
- 文部科学省への教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会に関する助言1件
- 文化庁美術工芸品修理の用具・原材料に関する調査委員会に関する助言2件
- 文化庁への模写模造事業における当該調査及び助言1件

## ○地方自治体への助言

- 山形県への文化財保護審議会・文化財保存活用大綱策定作業への文化財保護審議会に対する助言1件
- 山形県への文化財調査に関する助言1件
- 千葉県への博物館資料審査委員会に関する助言1件
- 千葉県への記録制作事業調査員としての助言2件
- 東京都民俗芸能大会実行委員会への助言2件
- 神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言2件
- 山梨県への文化財保護審議会に関する助言3件
- 静岡県スポーツ・文化観光部への助言1件
- 島根県への古代文化センターに関する助言1件
- 高知県碁石茶製造技術調査委員としての助言1件
- 沖縄県への武術的身体表現を伴う行事調査に関する助言1件
- 柏市への篠籠田の獅子舞調査検討委員会委員としての

## 助言1件

- 武蔵野市への文化財保護委員会に関する助言1件
  - 山北町教育委員会への助言1件
  - 箱根町への箱根湯立獅子舞伝承・活用等事業に係る整備委員会委員としての助言1件
  - 甲府市への天津司舞調査報告書作成事業に関する助言2件
  - 静岡市への文化財保護審議会・民俗文化財調査に関する助言2件
  - 京都市への伝統芸能文化創生プロジェクトに関する助言1件
  - ふじのくに無形民俗文化財保存継承アドバイザーとして無形民俗文化財の保存継承に関する助言1件
  - 岐阜県岐阜市・関市の鶺鴒習俗総合調査委員としての助言1件
- 関連団体への助言
- 岩手県文化財愛護協会の助言1件
  - 国立歴史民俗博物館の共同研究の助言2件
  - 公益社団法人全日本郷土芸能協会の運営に関する助言1件
  - 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団の伝統文化ポーラ賞に関する助言1件
  - 一般財団法人日本青年館の全国民俗芸能大会企画に関する助言1件
  - 京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議委員としての助言1件

## 保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

文化財の虫菌害に関する調査・助言<sup>(ホ)</sup>

**担 当** 佐藤嘉則、島田潤、建石徹(以上、保存科学研究センター)

**目 的** これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。